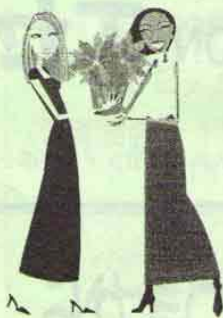


# 女の生き方塾 ひととはな 咲かせるための

## 団塊世代の夫婦・母娘関係考

現在開催中の講座「女の生き方塾～ひととはな 咲かせるための攻略ガイド」のなかから「もどってくる…その人の名は“夫”～もう一人の手ごわいヤツ、それは娘」と題した渡辺美恵さん(NPO 法人「生活企画ジェフリー」理事長)のお話をお届けします。団塊世代に限らず、夫婦や母娘の関係を見直すための示唆に富んだお話です。



## 攻略ガイド

### 中年男女の意識のズレや摩擦の現実を覗いてみる

定年で家庭に戻ってくる夫と困る妻。それは、男性と女性の意識差があまりにも大き過ぎるからではないでしょうか。生活者の視点というのが、男性にはほとんどないのです。

私が調査した中にも「夫と妻の勘違い」ということが明確に出てきました。「妻はオレより長生きするはず」「妻はオレの親を看てくれるはず」「妻は家事が好きはず」という“はず”を男性たちは信じているのです。

妻もけっこう勘違いをしています。「夫は私がいなくて何も出来ない、困るんですよ」と言いますが、困るようにしているのは自分ではないでしょうか。「私が我慢をすれば、この家はよくなる」と自己犠牲を愛と錯覚していたり、自分が女性なのに「女のやることって大したことないのよ」と決め付ける人、また「男は仕事が命なのよ」と、女性自身が認めているのでしょうか。女性だって仕事は命、子どもも命、女性は命をいっぱい背負って生きているのです。

中央区立女性センター情報誌『ブーケ(No50)』には、夫が定年を迎えた時の男女の温度差が出ています。定年を迎える男性は85%が「楽しい」と言っているのに、女性の40%は「ゆううつ」と答えています。

もっと興味深い数字は、「家庭における男女の研究」の「夫婦の不満」という枠の中で、「ストレスの原因はなんですか?」ということに対し、男性の1位は「会社の上司」、2位は「仕事の取引先」、3位は「会社の部下」で、男性の頭の中は会社の事しか考えていないような結果でした。

女性はどうかというと、ストレスの第1位は「だんな」、2位は「会社の上司」、3位は「子ども」でした。

これを見た時に、私はハッとしました。男のストレス源はすべて「仕事」、それだけ厳しく大変だということは分かります。では女性はというと、「だんな」=家事や家庭、「会社の上司」=仕事、そして「子ども」=子育てのストレスを表しており、はからずも男は仕事だけ、女は家事・育児に加えて、仕事という新役割分業の世界がはっきり出ていました。

では「ストレスをどう解消しているか」というと、女性は「買い物」が1位です。男性の1位は「一家の団欒」だそうです。仕事のストレスを解消するのは大事なことですが、いきなり家族を

集め、「団欒だぞ」と言われても、その対応は難しいのではないのでしょうか。

男性ばかり悪く言うてはいけませんので、彼らも大変だということを少しお話ししたいと思います。

自殺者の人数が8年連続で、年間3万人を超えています。うち男性は72.5%、50代が全体の25%、50歳以上は60%です。これは男性が何らかのストレスを抱え、どうにもならなくなっている状況を物語っています。

しかしそれだけかなという気もするのです。男性は女性に比べ、クリアする方法を知らない弱さがある、策が練れない、ネットワークがない、助けを求めるところがないなど、いろいろな意味で孤独のような気がしてなりません。男性は社会に出て敵はいるけれど、仲間っていないのかなという思いがあります。それは定年を過ぎて地域に戻ったとき「さあどうしよう」という彼らの悩みとも共通するものがあるのかもしれない。

### 夫攻略法～夫が変わるとき、夫を変わせるとき

家に居続ける「みのむし夫」(一日中パジャマ姿で寒くなればその上に上着をはおり、テレビの前でゴロゴロしている夫)の話もあったようですが、それでは困る、夫を変えたいと思う女性に、「あなた本気ですか?」ということを問いかけた。やるなら本気でやってみましょう。夫に本気が伝われば夫もビックリし、思いつきでやっているのではない、これは大変だと思い、彼も変わることでしよう。

夫は主人ではありません。私の中の主人は私である、私が主体ということ意識して家族と接する、妻や母の主体性・人権を大事にしてほしいと思います。

あうんの呼吸とよく言いますが、これは夫にとって都合のよいことが多く、妻にとっては居心地良い状況ではありません。これはおかしいなと感じた時は、喧嘩にならない程度に少しずつ夫の意識を変えていくことも大事です。

一心同体の生活はやめましょう。心も身体も別の二身異体の者たちがどうやって共有しあい尊重しあい生きていくかが、50歳過ぎからの私たちの“ひととはなを咲かせる”大事な基準ではないでしょうか。「私は本気よ、変わろうとしているのよ、社会に目を向けているのよ、あなたの思い通りにいかないわよ、あなたとは違う視点もあるのよ、一人の独立した人間なのよ」と